

図1 運動範囲と舌圧の関係

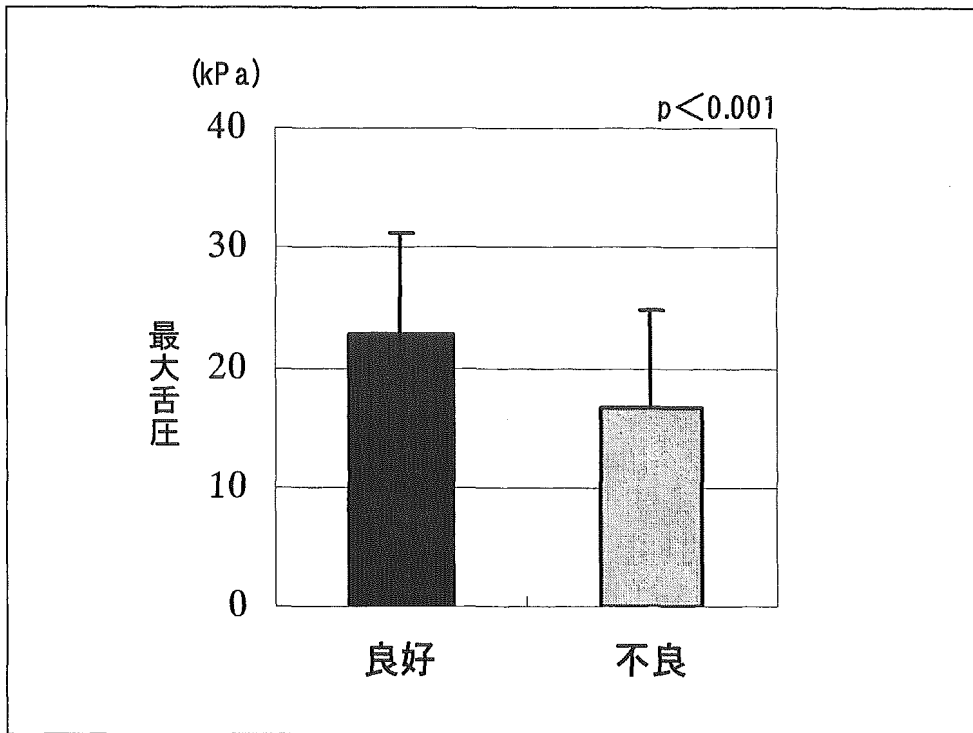


図2 運動速度と舌圧の関係

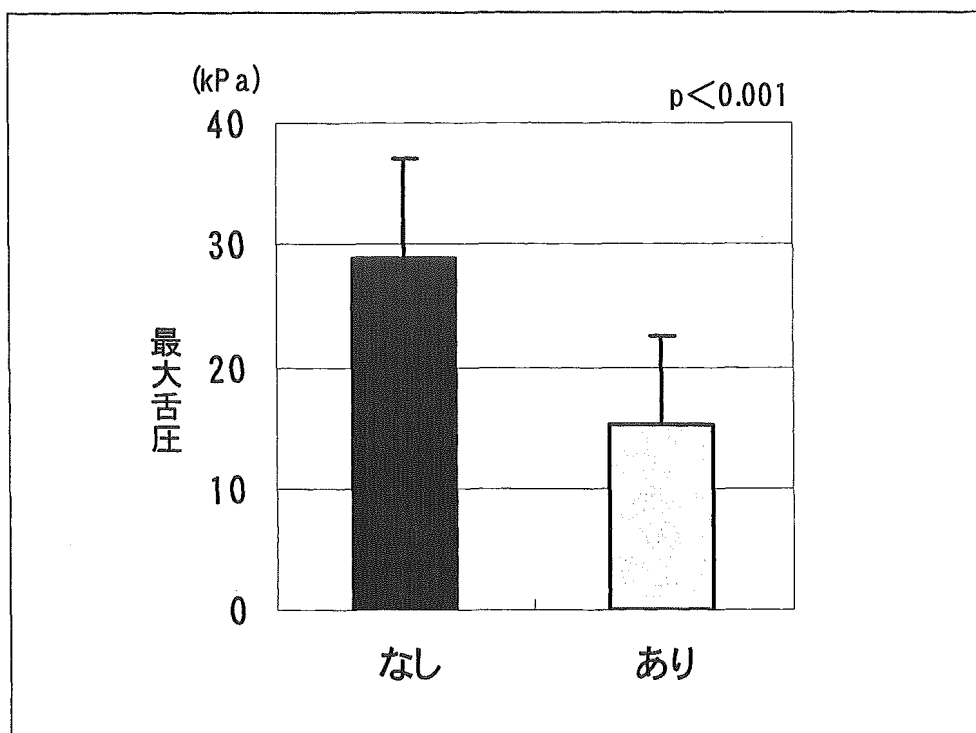


図3 『むせ』と舌圧の関係

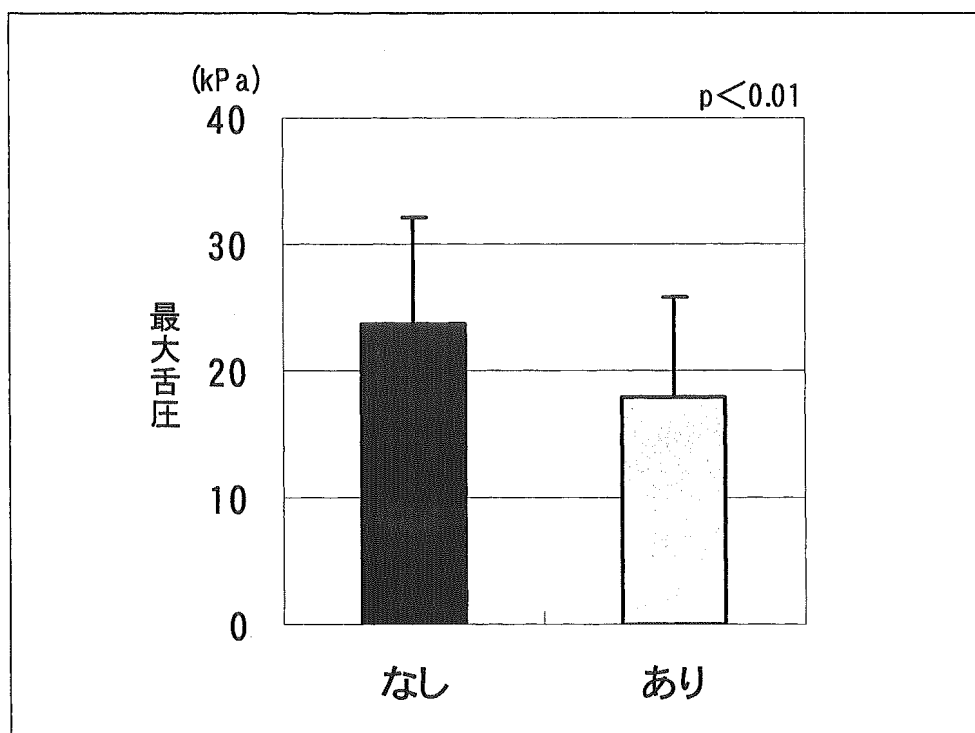


図4 『食べこぼし』と舌圧の関係

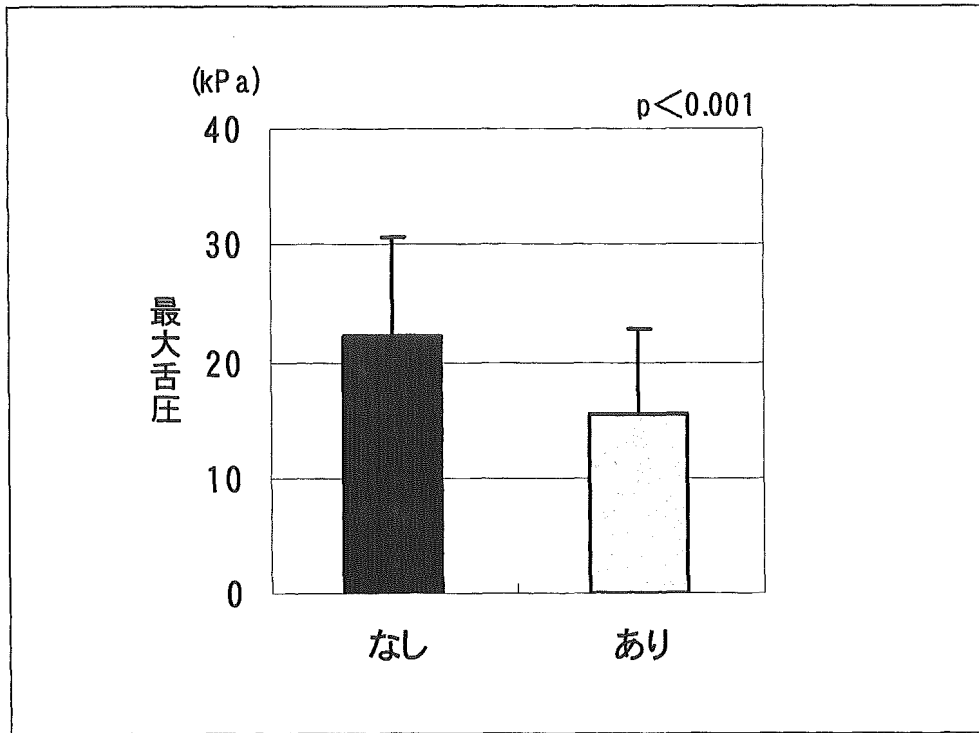


図5 『流睡』と舌圧の関係

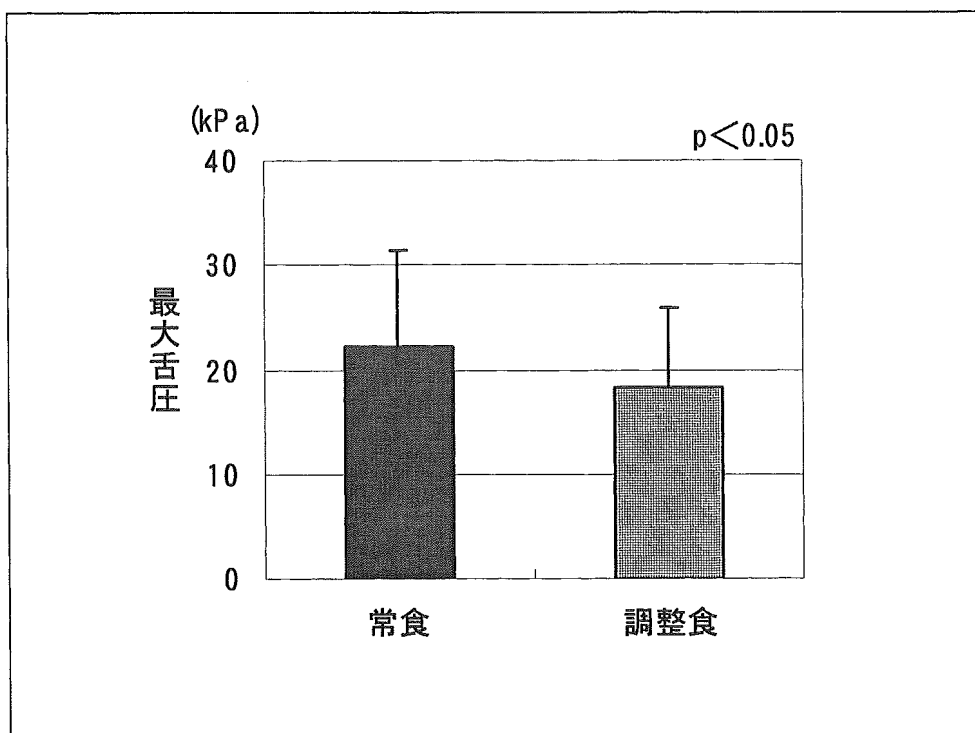


図6 食事形態と舌圧の関係

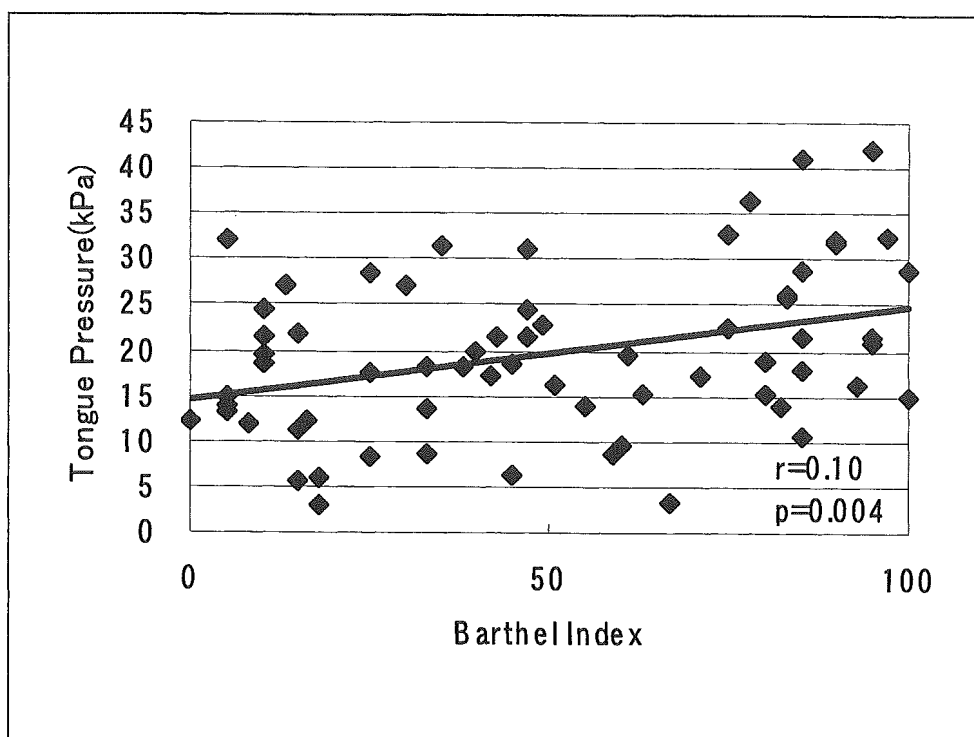


図7 舌圧と身体機能の関係

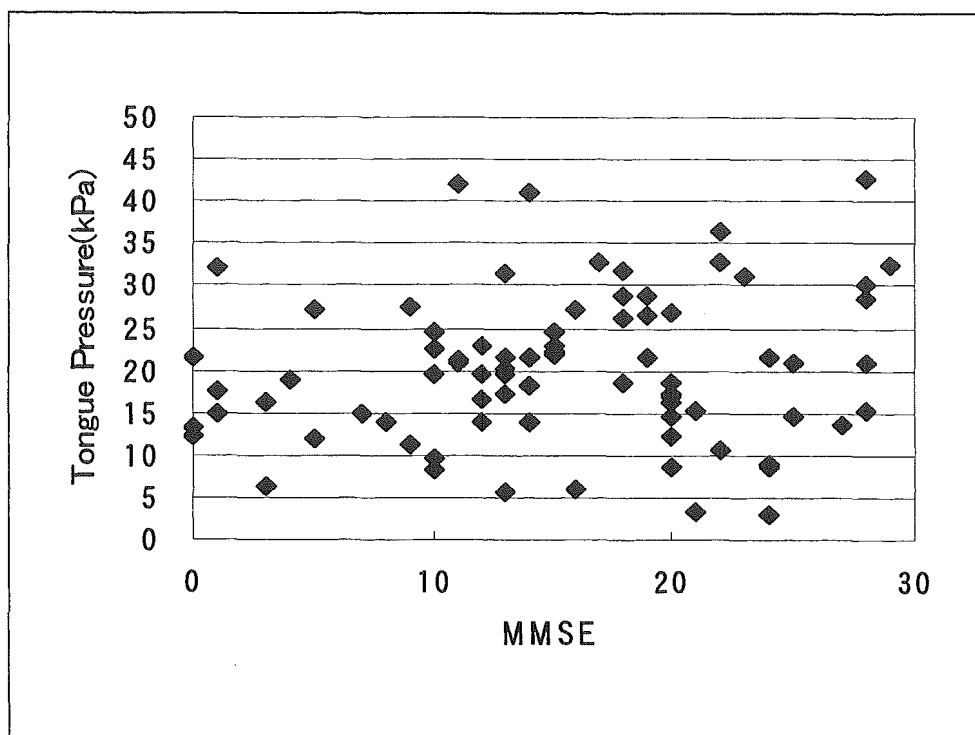


図8 舌圧と精神機能の関係

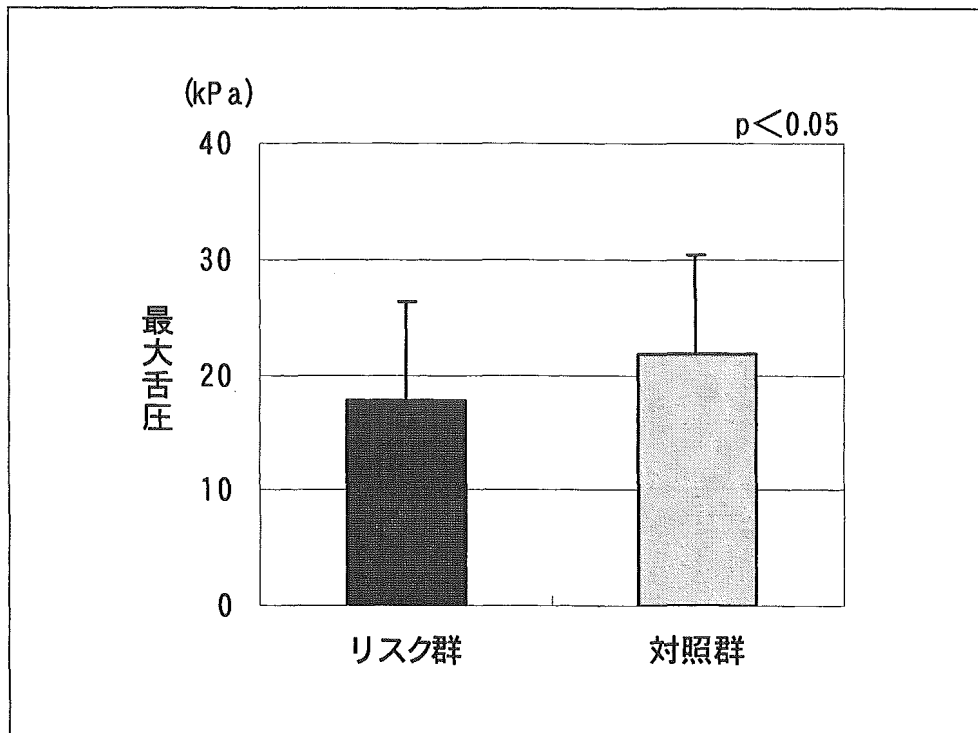


図9 舌圧とPEMの関係

表 1 運動範囲と運動速度の関係

運動範囲		良好	不良
運動速度	良好	50	5
	不良	20	8

表 2 『むせ』と運動速度の関係

		良好	不良
むせ	なし	50	5
	あり	20	8

p<0.05

表 3 『食べこぼし』と運動速度の関係

		良好	不良
食べこぼし	なし	36	0
	あり	34	13

p<0.001

表 4 『流唾』と運動速度の関係

		良好	不良
流涎	なし	52	7
	あり	18	6
			NS

表 5 『むせ』と運動範囲の関係

		良好	不良
むせ	なし	39	16
	あり	9	19

p<0.001

表6 『食べこぼし』と運動範囲の関係

		良好	不良
食べこぼし	なし	28	8
	あり	20	27

p<0.01

表7 『流唾』と運動範囲の関係

		良好	不良
流涎	なし	39	20
	あり	9	15

p<0.05

表 8 食事形態と運動速度の関係

食形態		常食	調整食
運動速度	良好	31	17
	不良	12	23

p<0.001

表 9 食形態と運動範囲の関係

食形態		常食	調整食
運動範囲	良好	41	29
	不良	2	11

p<0.05

表 10 咬合状態と PEM との関係

	PEM 群	対照群
維持群	19	30
崩壊群	13	21

舌機能評価を応用した摂食嚥下リハビリテーションの確立

分担研究報告書

第 5 章 総括

平成 16 年 3 月

主任研究者

赤川安正

広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 顎口腔頸部医科学講座

先端歯科補綴学研究室 教授